

私は親と暮らせない子どもたちにデザインを指導する教室でお手伝いをしています。レッスンが終わるとみんなでおやつを食べます。子どもたちにとって、おやつの時間は欠かせません。経済的に余裕がないデザイン教室で消費するおやつは「フードバンク」から提供していただいています。

フードバンクはNPO法人で、まだ食べられるのに不要になった食品を企業から無償で譲り受け、それらを必要とする人達のもとに無償で届けてくれます。大切な食べ物は廃棄されることなく広く分配され、多くの命をつなぐ糧として活用されています。



賞味期限まで十分な期間があり、おいしく食べられる食品なのに、容器が傷んでいるとか、ラベルに印字ミスがあるなどのささいな理由で廃棄される食品がたくさんあります。その一方で、その日の食べ物に困っている人がたくさんおられます。日本の子どもの六人に一人が「飢えている」という現実には私達大人が真剣に考えないといけない問題だと思います。

フードバンクの活動は食品企業にもメリットがあります。企業は廃棄コストを削減できるし、食べてもらうためにつくった商品が無駄にしないで寄付することで従業員は自分の会社に誇りを持てます。

食品廃棄の抑制を目指している行政にとつても、食品廃棄物の

減量を図ることができ、環境負荷を減らす効果が期待できます。

日本の食品廃棄量は世界で一位二位を争うほど多いそうです。政府広報によれば、日本では年間一八〇〇万トンの食品廃棄物が発生します。これは五〇〇〇万人が一年間食べていける量だといえます。そのうち、食べられるのに捨てられてしまう、いわゆる食品ロス^①は年間九〇〇万トンもあるといわれています。日本人一人が一年間毎日おにぎりを二個捨てている計算になります。日本は食料の多くを海外からの輸入に頼っていますが、その半分近くを捨てていることになるのです。

こんなことをして、子どもたちに食べ物を粗末にしてはいけなと言えるでしょうか。食べ物の大切さを忘れ、見た目ばかり重視するような偏った食の価値観が、これからの子どもたちの食に対する意識に、どんな影響を与えるのだろうかと考えてしまいます。

フードバンクの活動を知って、食べ物を大切にする思いが深まりました、うれしそうにおやつを食べる子どもたちを見ている時、支援していただいたことに感謝しようと思うとともに、飢えに苦しむ人たちがたくさんおられることを忘れてはならないと胸に刻みました。

